



座談会の3回目は、座長の鳥越淳司・相模屋食料社長ら9人が、「Withコロナ・Afterコロナにおける、わが社のイノベーション」をテーマに語り合い、新たな挑戦に必要な発想の転換、社会の変化を逃さない柔軟な対応力の重要性などについて意見を交わした。(原則金曜日掲載)



柴崎大海氏



広瀬一成氏



鳥越淳司氏



丸野ケンジ氏



江黒太郎氏



岡田勇一氏



齋藤胡依氏



大本寛氏



池田道成氏

座談会参加者

鳥越 淳司・相模屋食料社長
とりごえ・じゅんじ 1973年、京都市生まれ。96年、雪印乳業に入社。2002年に相模屋食料に入社、07年から現職。大豆加工食品を製造販売。革新的な商品を次々と打ち出して、業界トップ企業として成長を続けている。

岡田 勇一・オオラ美装社長
おかだ・ゆういち 1972年、福岡市生まれ。邑染町育ち。大学卒業後、金融機関勤務を経てオオラ美装入社。ビルメンテナンス業務などを経験した後、営業部長、副社長を歴任。2009年から現職。

広瀬 一成・アサヒ商会社長
ひろせ・かずしげ 1976年、高崎市生まれ。航空貨物会社を経て、祖父が創業したアサヒ商会に2009年入社。3代目社長に就任した。文具・OA機器、オフィス家具などを販売している。

江黒 太郎・クスリのマルエ社長
えぐろ・たろう 1976年、旧大胡町生まれ。大学卒業後、米国で経営学修士取得。国内大手製薬会社で営業、海外事業、マーケティングを経験し、2010年にクスリのマルエに入社。16年から現職。

柴崎 大海・うすい副社長
しばさき・おおみ 1982年、安中市生まれ。大学卒業後、他の学習塾勤務などを経て2011年、うすい学園に入社。PISA型学力を育成する同塾の運営に携わる。12年から教室長、18年から現職。

丸野ケンジ KJ Internacional社長
まるの・けんじ 1989年、ペルー生まれ。桐生市育ち。人材派遣会社勤務を経て2014年に独立。在日外国人と製造業企業をつなぐ会社として事業拡大中。インド出身の高度人材の派遣にも力

池田 道成 じぶんカンパニー社長
いけだ・みちなり 1991年、東京都生まれ。伊勢崎市育ち。大学在学中の2015年、じぶんカンパニーを創業。前橋、高崎でメディカルジム「プライベートジムD ROIT」4店舗を展開している。

大本 寛 セントラルサービス社長
おおもと・ひろし 1977年、水戸市生まれ。99年セントラルサービス入社。入社後2年間、請負スタッフとして製造現場に従事。その後、複数の営業所責任者を経て、2015年から現職。

齋藤 胡依・ダイコー社長
さいとう・こい 1970年、中国生まれ。2006年に十割そば専門店「竹林」を開店し、08年にダイコーを設立。そば店経営や業務用食材の仕入れ、販売業務、そば粉の製粉業を展開。昨年4月から「日本そば文化学院」理事長。

強み生かし新商品 鳥越氏
小さな挑戦続ける 広瀬氏
変わる講師の役割 柴崎氏
業界イメージ変化 岡田氏
鳥越 新しい豆腐の世界を広げること、破綻した豆腐メーカーの救済や再建に取り組んでいる。「やっても無駄」と思われても「やればできる」と証明したい。

「地域一体企業」へ SNSを積極活用 丸野氏
正しい知識届ける 池田氏
江黒 クスリのマルエは主にドラッグストアと調剤薬局を経営し、地域密着の先「地域一体企業」が目標で、店を通して地域に貢献していくことを追求したい。

後継者育成にも力 齋藤氏
外注ニーズ深掘り 大本氏
齋藤 ダイコーは十割そば専門店「竹林」の経営と、業務用食品卸やそば粉製造を手掛けている。後継者を育てるため、社内では給与計算ソフトや名刺管理ソフトを導入し、効率化や情報共有を図った。方針を定め社員で向かうことを意識して進んでいきたい。

発想の転換が活路を開く

12月5日(日)にファイナルステージ
プレゼンや特別公演
「群馬イノベーションアワード(GIA)2021」(上毛新聞社主催、田中仁財団共催)のファイナルステージが12月5日、前橋市のヤマダグリーンホール前橋で公開で開かれる。2次審査を通過した18組がプレゼンテーションする。

インなど、手掛けるプロジェクトは年間200件を超える。グッドデザイン賞審査委員、森林再生ともづくりを通じて地域産業創出を目指す「株式会社飛驒の森でクマ

は踊る」取締役会長なども務めている。また、オープニングでのライブコーディングパフォーマンス、インターバルコンテンツでは高校生らのパフォーマンスを予定している。入場は無料。問い合わせは事務局(☎027・254・9955)または専用サイト=QRコード=へ。